

夢のつばさプロジェクト 2015年夏キャンプ学生報告書

【日程】2015年8月4日(火)~7日(金) (3泊4日)

【開催地】(株)ブリヂストン保養所奥多摩園 (青梅市)

【参加者】子ども：24名 (小学生15名、中学生5名、高校生4名)

学生スタッフ：37名 (途中入れ替わり含む)、社会人スタッフ：16名

○1日目

開会式：開会式の始めに、今まで学生として関わり社会人となった先輩方からビデオレターをいただいたのでみんなで見ました。よく見知った先輩方の顔がスクリーンに映ると子どもたちはとてもうれしそうに見ていました。その後、今回のキャンプのテーマ「自分らしく輝け！」を発表し、今回のキャンプで自分が積極的に取り組みたいことを短冊に書いて笹が描かれた模造紙に貼ってもらいました。アイスブレイクでは、カードに描かれた同じ絵柄の人どうしで集まり、自己紹介をしました。また、箱の中身を手で触って中に何が入っているか当てるブラックボックスゲームをして楽しみました。

○2日目

スカイツリー観光：2日目は一日かけて東京スカイツリーとソラマチで観光をしました。行きのバスの中では学生が用意したレクリエーションで遊んだり、近くの友達とおしゃべりしたりして長い移動時間を過ごしました。高速道路の渋滞のため、到着時間が遅くなり展望台にのぼる時間が短くなってしまいました。しかし、少ない時間の中でも子どもたちは普段見ることのできない空からの東京の景色を楽しんでいました。少し遅いお昼はソラマチの中の2つのレストランに分かれて食べました。昼食後はソラマチの中でお店を回り、おみやげを買いました。ソラマチの中には様々なお店があり、子どもたちは思い思いのおみやげを選んでいました。

○3日目

謎解きゲーム企画：ヒーローショー風の寸劇を交え、○×クイズ・借り物競争をみんなで行いました。○×クイズでは単なる○×クイズに続き、4択クイズ・イントロクイズと徐々に難しくなるクイズを解こうと予め分けられたグループで協力して答えを考えていました。借り物競争は紙に書かれたお題に当てはまる物や人を探してその速さを競いました。難しいお題もあり当てはまる人をなかなか見つけられないグループもありましたが、最後まで一生懸命考えてゴールお題の人

を見つけていました。

流しそうめん：お昼には、奥多摩園のスタッフの方が暑い中、奥多摩園のお庭に本格的な流しそうめんを準備してください、一同大いに楽しんでたくさんいただきました。この日はとても気持ちのいい晴れ空だったのでそうめんの清涼感がより一層感じられました。初めての試みでもあり、ご厚意でそうめんをたくさんご用意いただいてしまい、ずいぶん余らせてしまったのは失敗で、心が痛みました。この経験を次に活かしたいと思います。終わりにかき氷も食べて、皆、大満足でした。食べ終わると後片付けは学生が担当して、子どもたちは次の企画へ移動しましたが、楽しむだけでなく、最後まで自分達で片付けたり、他の人のために始末したりするようにすればよかったと思いました。



実験企画：お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターの垣内康孝先生、吉村和也先生、堀田のぞみ先生にお越しいただき、3グループに分かれてそれぞれ科学実験を指導していただきました。小学生低学年はプラスチックケースの中に線香の煙を対流させたり、ペットボトルの中に雲を発生させる器具を使ったりして大気の仕組みを視覚的に学びました。小学年高学年と中学生1年生はペットボトルで風車を作り、風で電気を発生させられること、またその仕組みについて学びました。中学生2，3年生と高校生は電池と磁石を使って手作りした装置で、電流と磁気でコイルに力が働く様子を観察しました。子どもたちは興味津々で、装置の調整を繰り返して仕組みを理解しようとしていました。子どもたちはそれぞれレポートに熱心に記入し、まとめの発表会で報告し合いました。よい自由研究の題材になったと思います。



音楽会：オペラ歌手の青木寛子さんと指揮者の中島章博さんが子どもたちのためにオペラの歌唱・フルートの演奏をしてくださいました。キャンプでオペラの歌唱を聴くのは初めてで圧倒的な歌唱力に子どもたちは聞き入っていました。演奏の後に青木さんからは歌い方をご指導いただき、中島さんからは、指揮を体



験させていただきました。最後に2人の子どもの指揮の下、恒例の「翼をください」をみんなで合唱して音楽会を締めくくりました。この音楽会では、中高校生2名が司会を担当して、音楽家の方への挨拶や曲紹介なども行いました。部活動でも楽器を演奏し、音楽好きな2人は楽しそうに司会をこなし、皆にほめられてうれしそうでした。

閉会式：閉会式では、まず、学生たちが深夜まで編集をがんばった、「キャンプ4日間を振り返るスライドショー」を見ました。その後グループに分かれて、お互いに今回のキャンプで他の子ががんばっていたことを見つけて、話し合ってもらいました。そして、次回の冬キャンプでがんばりたいことを書いてもらった後、同じ部屋で4日間寝泊まりした学生から子どもたちへメッセージカードをひとりひとり渡しました。以前はこうしたときに、注目されるのを恥ずかしがってみんなの前に立とうとしなかったり、緊張して記念写真撮影を嫌がったりする子どもがいたのですが、今回は、皆、素直に笑顔を見せ、子どもの成長や心の穏やかさが感じられました。「受験も近いけれど次のキャンプにも来る、僕はこのキャンプではお兄さん役だから」と話してくれた子もあり、スタッフたちにはうれしい瞬間でした。

夏キャンプを終えて

夢のつばさプロジェクトでは、子どもたちの個性を伸ばせる環境をめざして活動を続けていますが、今回のキャンプではいくつかの企画内での子どもの役割分担を増やしました。また、企画準備の手伝いや企画の司会をしてくれる子どももいました。これからもキャンプの活動の中で様々な体験をして成長し、自分らしさを見つけ、自分の夢につなげていってほしいと思います。一回のキャンプで成果を出すのは難しいかもしれませんが、今回のキャンプがそのきっかけになればいいと思います。

奥多摩園の方たちのご厚意にも心より感謝しています。バスでの社会見学では、交通渋滞で戻りが遅くなり、夕食時間をはっきりお知らせできずにご心配をかけてしまいました。この日は昼食が遅かったせいもあって、せっかくの夕食をだいぶ食べ残してしまったりして申し訳なく思いました。反省するべきところはありましたが、その反省を活かしてさらに夢のつばさのキャンプが子どもたちにとって「戻ってこられる居場所」になり、子どもたちの「夢の応援の場」となっていくよう、充実させていきたいと思えます。

こうした良い活動を続けることを可能にくださる、皆様のご支援をととても感謝しています。これからもよろしく願いいたします。

学生ボランティア代表

東京大学 理学部地球惑星環境学科3年 山下誠矢